

～昭和30年代の上尾～

昭和33年7月15日に市制施行した上尾市は、ことし市制施行60周年を迎えます。平成30年4月号から平成31年3月号までの上尾歴史散歩は、昭和30年代当時の広報誌『上尾自治だより』から、当時の出来事やその背景などを探ります。

祭りばやしとコンクール

上尾市域に伝承されてきた祭りばやしは、江戸時代後期から明治時代初期にかけて、江戸・東京から伝播した民俗芸能である。主として、夏祭り、祇園祭、天王様と呼ばれる地域の祭りや演奏されるもので、貴重な民俗文化財となっている。「祭りばやし」は名前のとおり、何かを囃す民俗芸能であり、ある時は神輿を囃し、ある時は山車や檜の上で囃すことが、いわゆるお祭り気分を盛り上げるための、必須アイテムの一つとなっている。

昭和31(1956)年9月20日



写真1 第1回祭りばやしコンクールの様子を伝える「上尾自治だより」(第21号)

発行の『上尾自治だより』第21号(写真1)には、「盛だだつた祭りばやしコンクール」という記事がある。上尾町はやし連合会の主催で、17団体の囃子連が、古くから伝わる郷土芸能としての無形文化財の保存のために「祭りばやしコンクール」を実施した(写真2・3)。

審査員には、はやし連合会長と各はやし連の代表の他、永井白淵氏があたっている。永井氏は十日町小唄の作詞者として知られている。十日町とは現在の新潟県十日町市のことで、名産である十日町織物のPRのために、中山晋平の作曲で制作されたものである。当初は「サツテモ節」としてレコードを発売。昭和35(1960)年には「全国民謡・新民謡ベストテン」の新民謡部門で1位となっている。また、永井氏は、松坂屋(東京都台東区)の意匠研究の担当者であり、十日町の織物の技術指導も行っていた。

昭和32(1957)年9月20日発行の『上尾自治だより』第33号では、「下町はやし連」2年連続優勝という見出しで、9月15日に行われた第2回祭りばやし

コンクールの記事がある。この見出しにあるように、最優秀賞は前年と同じ平方下宿の下町はやし連。次席に中新井はやし連、続いて堤崎はやし連も2年連続で入賞を果たした。

この日の10時に、中央小学校に集合した後、周辺を巡回して、16時から現在のJ-R上尾駅東口付近にある笠間神社境内で審査が行われた。審査は、東京都無形文化財保護委員の宮尾しげを氏と、文化財保護審議会専門委員・早稲田大学講師の本田安次氏に依頼。宮尾氏は、第2次世界大戦前は漫画家として活躍する中、戦中から江戸の庶民文化を研究してきた。また、本田氏は日本民俗芸能学会の研究者であり、2人は昭和29(1954)年に『東京都の郷土芸能』を共著で出版した。

祭りばやしコンクールでは、永井白淵、本田安次、宮尾しげをといった著名な審査員を招いている。当時、文化財保護法や条例なども施行される中、コンクールという手法で、郷土芸能の文化財としての価値を訴えかけている。

(上尾市歴史民俗研究会)



写真3 勢ぞろいした囃子連(第1回コンクール)



写真2 中山道を通る囃子連(第1回コンクール)